

第7回中国社会学学会社会福祉研究専門委員会の年次大会報告

国際学術交流促進委員 包敏(広島国際大学)

2015年7月6日から8日まで、日本社会福祉学会長岩田正美先生と包敏国際学術交流促進委員が、主催校：中国青年政治学院(中国北京市)での「第7回中国社会学学会社会福祉研究専門委員会年次大会」に参加した。

今大会のテーマは「ニューノーマル(新常态)における社会福祉ガバナンス」である。背景には、近年、中国経済が過去30年来高度成長の状況(年平均GDP10%台の成長率)から、2012年より中程度速度の成長時代(2012年、2013年、2014年の増加率が7.7%、7.7%、7.4%)に入ったことがある。また、中国政治も新常态(ニューノーマル)の様態を呈し、役人腐敗の取締りがいっそう強くなり、公務員に対する綱紀粛正も厳しくなっている。中国における社会建設に関しても法治国家を推進し、調和社会・幸福社会の実現を促進している。新常态により中国の文化発展も新しい段階に入っている。

7日の開会式後、岩田先生は「日本における「新常态」と社会保障・社会福祉の改革戦略」をテーマに基調講演を行った。初日の分科会には、第1分科会の社会福祉ガバナンス、第2分科会の高齢者福祉、第3分科会の社会救助と社会組織および第4分科会のソーシャルワークがあった。

8日には基調講演、各分科会の代表による報告と総括が実施された。

大会期間中、岩田先生は中国社会学福祉研究専門委員会副理事長彭華民先生をはじめ、専門委員会の責任者と会談し、今後日中間の学会交流に関し、意見を交わした。

詳細な中国大会報告は、主催校ホームページに掲載されている。

(http://kyc.cyu.cn/kydt/201507/t20150713_70675.html)

